

12. 埴安神社(はにやすじんじゃ)

江戸時代の天明2年(1782)に上開作築造完了後、引き続き中野開作の築造を着工するに当たり、地鎮の神として埴安社が祀られた。ご祭神は埴安大神・綿津見大神・巖島大神である。

埴安とは土を意味し、「古事記」に埴安彦神とあり、土地を支配する神である。綿津見は海を意味し、海を支配する神である。巖島は宮島の巖島神社のご祭神、市杵島姫命を祀ったもので、十七夜管弦祭がそのために行われている。

中野開作は天明年間(1782~1787)に毛利藩(撫育局)によって遠浅の海を堰止めた開作地であり、埴安神社の拝殿は、安政4年(1857)小野地区の宮ヶ峠にあった社殿を、中野開作に移築したものである。尚現在の拝殿は、昭和56年に二百年祭を挙行了たときに修復されました。

21. 妻埼神社(つまざきじんじゃ)

妻埼神社は文化14年(1817)に完成した妻埼開作安全祈願のため、翌年の文政元年に巖島大明神(市杵嶋姫命・田心姫命・湍津姫命の三女神)と少童大明神(海の神)を守護神として祀ったのが始まりである。その後、明治4年豊玉姫大神も祀り、妻埼神社と社名を改め今日に至っています。昔は、神社前の鳥居からお旅所までの一直線の参道で流鏝馬が行われていました。現在は、毎年5月20日の祭礼には、厚東川堤防側の土手町にあるお旅所まで、若衆に担がれた二体の神輿が往復する勇壮な御神幸があります。

25. 松江八幡宮(しょうごうはちまんぐう)

厚南地区の氏神様として黒石の高台にあります。神功皇后が朝鮮出兵の折、この付近で軍船を整え住吉大神をまつり戦勝を祈願された。その時の御幣を村人たちが岡の原(現在の岡田屋)に祠を建てておまつりしたことにはじまる。

現在の地に移ったのは、大内時代、当時の所司代の三戸有次により、寛政6年(1465)である。当時、この山(薬師山)の下のあたりは海であり、松江の津と言っていたので松江八幡宮と呼ぶようになりました。

祭神は、仲哀天皇・応神天皇・神功皇后・住吉大神・武内宿禰で、このお宮の石段の途中に釣鐘があり、神社には珍しいが神仏習合の名残りである。

周りの森は、宇部市の天然記念物に指定されており、イチイガシ・ミズバイなどが繁り、神社らしい雰囲気醸し出しています。

26. 競馬場跡(松江八幡宮内)

本殿横の広場で、昭和23年頃まで祭りの日には、競馬が開催されていました。今も、その競馬審判席の石段が残っています。

※お旅所・・・ご神体を移動して、祭礼をおこなう所。

※流鏝馬・・・馬に乗って走りながら的を弓で射ること。